市立 いちかわ 自然博物館だより

4-5月号

(通巻 139号)

あたりまえの風景に あたりまえの生き物に あたらしいときめきがある!

いきもの 写真館

ル



めます。春を告げるチョウですね。虫越冬したチョウが、真っ先に飛びはなり、ルリタテハやキタテハなど、サルリタテハ

は じ 成

撮影:土居幸雄さん

♠いきもの写真館 ルリタテハ

同じ場所を何度か訪れる 江戸川放水路 3月30日

P 4 ※花屋の花を観察する スイートピー

P 5 禁街かど自然探訪 二俣 浜堤と街道

> ぐすのきのあるバス通りから ヒキガエルの行動

P6 禁むかしの写真で見る 昭和の風景 京成電車 江戸川鉄橋

禁わたしの観察ノート 1月~2月ごろの記録

P8 禁行事案内



同じ場所を何度か訪れる

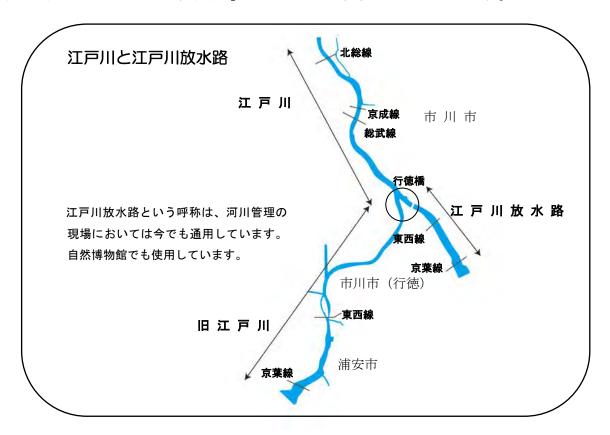
江 戸 川 放 水 路

3月30日

【訪れる場所の紹介】

江戸川放水路は、「江戸川」のうちの、 おおむね行徳橋から湾岸道路・JR京葉 線の鉄橋に至る範囲のことです。この部 分は、増水した江戸川の水を東京湾に流 すショートカットの流路として、大正時 代に造られました。洪水対策の「放水路」 です。その後、名称だけが「江戸川放水 路→江戸川」「江戸川下流部→旧江戸川」 とされましたが機能面の変更はなく、江 戸川の水はいまなお「旧江戸川」を通っ て浦安の先で東京湾へ注ぎます。江戸川 放水路へ江戸川の水を流すのは、台風な どの増水時だけです(行徳橋が併設され ている「行徳可動堰」の水門を、ふだん は閉じています。堰の両端の小さな口か ら、ごくわずかな量だけ江戸川放水路へ 流しています)。

結果として、「江戸川放水路」へは東京湾側から潮の満ち干にあわせて海水だけが出入する、海の環境(東京湾の入り江)になっています。



【いろいろな自然環境・生物・工事】

長さ3キロほどの江戸川放水路の両岸をひと回りすると、いろいろな景観に出会います。自然環境をおおざっぱに区分すると2つに分かれます。行徳橋~東西線鉄橋付近までが「泥干潟」、東西線鉄橋から湾岸道路・JR京葉線の鉄橋までが「砂干潟」「砂浜」です。そして、それぞれの場所において「アシ原」をはじめとする植物群落が、あったり無かったりします。

生物面では、5月から10月は干潟の動植物が多く見られます。トビハゼをはじめとする魚類、カニ類、貝類や、ハマヒルガオなどの海浜性の植物も見られます。11月から4月は野鳥が多く、渡り鳥のシギ・チドリ類、越冬するカモ類、サギ類などが見られます。夏にもコアジサシなどが目につきま

す。取材をした日は、干潟ではコメツ キガニの砂団子が少し見られ、ハジロ コチドリという可愛らしい渡り鳥に 出会えました。

冬期は洪水が起きにくい季節ということで、取材の日も工事がさまざまに行われていました。今シーズン行われているのは、大きく3つの工事でが行徳可動堰の改修工事(新設の予定が行金曲折を経て改修になりました)、高潮対策の堤防かさ上げ工事(東日本大震災前に着工したので津波ではなく高潮対策です)、妙典橋の橋脚造成工事です。そのほか湾岸道路橋脚の耐震補強工事も行われていました。前ということもあり、かしからさまざまな工事がおこなわれてきました。自然環境との折り合いのつけ方にも歴史があります。



干潟と桟橋



広がる泥干潟



砂干潟に立つ木杭



トビハゼ護岸



砂浜に残された波の模様



橋の下から東京湾を望む

花屋の花を観察する

スイートピー

スイートピーはマメ科の植物です。名前の「sweet pea」は直訳すれば「甘いマメ」ということになるのでしょう。花屋さんでアレンジに使われるスイートピーは大きなフリフリの花びらが本来の形を隠してしまっていますが、よく見るとフリフリの中央に舟形の花びら(竜骨弁:竜骨とは船底の中心を船首から船尾までを貫く材)があり、マメ科であることが納得できます。エンドウやレンゲ、フジ、シロツメクサの花と同じ形で「蝶形花」と呼ばれています。

竜骨弁の中には、雄しべと雌しべが入って います。雄しべは根元がくっついて筒状にな



り、雌しべを包み込んでいます。雌しべは舟 形の花びらに沿うように先が曲がり、普段は 雄しべ・雌しべとも、花びらの中に格納され ています。虫が止まると竜骨弁が下がり、花 の奥にある蜜への道が開けます。そして、そ の道上に雄しべ・雌しべが待ち構えていると いう仕掛けです。野外でレンゲやフジの花を 観察すると、この仕掛けが発動するようすが よくわかります。

花が終わったスイートピーをそのままに しておくと、うまく受粉していればマメがで きます。あたりまえの話ですが、実際にマメ ができると、ちょっと感動です。



花の中央部分。竜骨弁が 見える。



花の背後。大きな萼(が く)がある。



竜骨弁を押し下げた。 「し<mark>べ」が</mark>出てきた。



竜骨弁以外の花びらを取 り除いた状態。



竜骨弁を前から見た。舟 形をしている。



竜骨弁を取り除いた状態。筒状の雄しべ。



花びらが縮んでくると マメが現れる。



すっかり「豆」らしく なった。

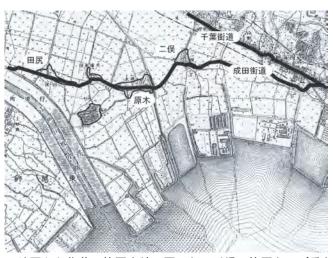


街かど自然探訪

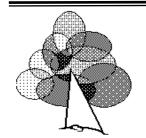
おじゃまします!

二俣・浜堤と街道

かつての二俣の中心は、今の原木インター北側にあり、行徳から、田尻、原木と続く成田街道(現在の県道179号線)が通ります。これらの昔からの集落は、「浜堤(ひんてい)」と呼ばれる地形の上にあります。川が作る自然堤防と同様に、おもに海が運んできた砂が堆積してできました。周辺よりも微高地で土地がしっかりした場所なので、街道もそれらの場所を首飾りのように連ねて通っていきました。



△地図から集落の範囲を線で囲った。浜堤の範囲とほぼ重なる。 (昭和28年国土地理院発行の地図より)



くすのきのあるバス通りから No.81 G

ヒキガエルの行動

今年の冬は気温が低い日が多く、カン ガクラもまだの様です。3月11日夜8時頃 八幡4丁目側の葛飾八幡の鳥居から十二 社神社へ向かう間に2匹カエルが轢かれていました。例年より遅いような気がします。二三軒分離れていましたが二匹とも同じ向きでした。行きたい方向が同じなのかもしれません。我が家の庭にヒキガエルが1匹います。カエル自身は好きな時間に好きなように過ごしていて、私と出会う場所が色々です。暇があったら行動を監視してみたいものです。ある夏、野りでといって、小動物の骨が出てきたときはワクワクしました。手の形を崩してしまって「ああ残念、ネズミか

な?」と思いましたが、「夏前に、道路 で轢かれたカエルを自分で埋めた蛙だ」 と思い出しました。

(M. M.)

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1/ 25

10/1

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和36(1961)年 撮影

京成電車江戸川鉄橋



写真提供 岩瀬 徹氏

この場所は、

都心が立地する「東京低

が、

下総地域に広がる「下総台地

江戸川の河川敷に目を移すと、意外 に「荒れて」います。生活上あるいは だわざ草刈りに労力をまわす余裕のな が時代だったのでしょう。ですが、こ い時代だったのでしょう。ですが、こ が時代だったのでしょう。ですが、こ

斜面林が延びるようすがわかります。ものです。鉄橋の向こう側に国府台の鉄橋を小岩側(東京側)から撮影した

都内から電車で千葉方

台地の接線が斜面になり、そこに林が

とはじめて接するところです。

低地と

残されました。

面に帰る時、

国府台の緑を見て多くの

人が帰宅を実感したそうです。



◆大町公園より

- ・暦の雨水のイメージ通り「ぬるい雨」 が降り、その翌々日にニホンアカガエ ルの卵塊を数えたら、自然観察園全体 で503個見つかりました(2/9)。絶好の 雨にオスもメスもいっせいに出てきて、 特にメスはもれなく産卵できたようで す。
- ・コブシの花芽がほとんど見当たりません(2/28)。この冬は1月頃の雨が少なかったので、そのせいで花芽が落ちてしまったのでしょうか? 自然観察園自体は湧き水が豊富で、いつも潤っているのですが。

金子謙一(自然博物館)

◆国府台周辺より ———

- ・里見公園の梅園で白梅が2つ開いていました(1/13)。寒さ厳しい中にも、 春が近づいていることが、感じられま した。
- ・里見公園分園から江戸川へ出る道沿い や、真間山幼稚園裏にあるコブシに花 芽がほとんど見られません(2/10)。さ びしいです。自然観察園と同じ原因で しょうか。
- ・国府台天満宮の鳥居に、ジョウビタキ のオスがとまっていました(2/20)。

◆じゅん菜池緑地より ———

・前の日に降った雪が残る明るい日射しの中、コゲラ2羽、エナガ、シジュウカラの群れが木の枝に見られました(1/25)。

以上 M.T. さん

・紅梅1輪、白梅1輪、咲いていました(2/2)。

谷口浩之さん(北国分在住)

・昨夜降った雪が残る"じゅんさい池" その最南部の水面に浮かぶコガモの群 れ(オス12羽、雌7羽)の大きさに驚き ました(2/18)。外のカモ類がいつもと 違って少ない中、中洲には、さらにオ ス12羽、雌10羽が休んでいました。合 計41羽は、これまでの最多観察記録で す。また、一番奥の池の背の高い枯草 の中に、アオサギ1羽がじっと佇んで いました。

◆坂川旧河ロー帯より ___

- ・気温は低いものの風のない日和のせいか、江戸川べりの木にとまっていたツグミが口笛のような鳴き声を出していました(1/1)。
- ・江戸川べりのピラカンサの木にとまって、ツグミ、アカハラ、ヒヨドリが競って赤い実を食べていました(1/15)。 大量に最後まで残った(美味しくない?)実に手を付け始めたようです。 以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆中国分より ———

・自宅のキンモクセイの木で、メジロの 巣を見つけました(2/11)。

道下 誠さん(中国分在住)

年明けから、厳しい寒さが続きました。 そのうえ一月は雨が降らず、カラカラで したが、下旬になってやっと雨が降り、 何度か雪も積もりました。



事系





(

おやこ自 然 観 寨 会

お申し込みが必要な行事です。

昆虫の観察を中心にした、親子で楽しめる自然の観察会です。

自然博物館周辺 *場 所

午前中 1時間半~2時間 * 時 間

*定 員 親子対象です。 各回とも、先着20名

タイトル	日にち	受け付け開始日
5月の昆虫	5月13日®	4月21日より
6月の昆虫	6月10日®	5月19日より
7月の昆虫	7月15日 🗓	6月16日より

お申し込み方法

往復はがきに、

参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、 返信面に返信先を明記の上、 下記まで、お申し込み下さい。

〒272-0801 市川市大町 284 番地 「〇月の昆虫」 自然博物館 とご記入ください 参加希望

長田谷津 散策会 お申し込みの必要はありません(兩天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

5月5日田、6月2日田、7月7日田、 午前10時~11時30分 日時

動物園券売所前 午前10時 • 集合場所

季節を感じる 散 策 会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ 場 所 春の江戸川土手 4月22日 ①午前10時~11時30分 里見公園下江戸川土手 初夏の雑木林 6月17日 銀子前10時~11時30分 堀之内貝塚公園

長 田 谷 津 ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか。〉(雨天中止)

- 日 時 4月29日间、5月27日间、6月24日间、 午前10時~12時
- 観賞植物園入り口 午前10時 • 集合場所
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場 などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館 にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いしてくださいませんか。

(申し込み不要・爾天中止)

- 5月6日围、6月3日围、 • 日 午前10時~12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館まで お電話でお問い合わせください。

第24巻 第1号 (通巻第139号) 平成24年4月1日 発行 編集・発行/市立市川自然博物館 〒272-0801千葉県市川市大町284番地 **23**047 (339) 0477

http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/